

課目基本情報

| | | | |
|--------|------------------|-------|--------|
| 授業科目名 | 関係法規・制度 | 課目区分 | 必修課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次2学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 北原 良一・間宮 茂・川内 香織 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------------|--|
| 学 習 目 標 | <p>美容師の業務に関する衛生及び消費者保護の法規・制度について正しい知識の習得と公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について理解する。</p> <p>美容の業務に関する規定内容を正確に理解すると共に、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握する。</p> |
| 教 科 書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集 |
| 授 業 計 画 | <p>衛生行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律、政治、行政の役割、機能など衛生法規を学ぶために必要な基礎的事項 ・行政の仕組み、国の行政と地方の行政との関係 ・衛生行政の概要、目標、種類、意義 ・保健所の概要、任務や活動及び組織 <p>美容師法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容師法の沿革、目的、意義について ・美容師法の用語と定義 ・美容師についての意義、免許制度、免許手続、免許の欠格要件、免許の登録 ・美容師試験についての意義、試験の内容及び受験の手続き ・美容師養成施設について、その課程、教科課目 ・業務上の遵守事項、業務を行う場所などに関する法律 ・美容所の開設などの届出、施設の検査確認、美容所に関する規制の内容 ・管理美容師の業務、美容所閉鎖命令、美容師法の罰則について <p>その他の関係法規</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活衛生関係営業の適正化及び振興に関する法律及び消費者保護関連法規について ・美容師法以外の美容に関係のある法律 ・美容師法と理容師法の法令上の違いについて |
| 授 業 の 進 め 方 | 講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 |
| 試 験 の 実 施 方 法 | 学期末試験 筆記試験(4択) |
| 成 績 評 価 方 法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------------------------|-------|--------|
| 授業科目名 | 衛生管理 | 課目区分 | 必修課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 3 | 授業時間数 | 90 |
| 担当教員名 | 北原良一・長谷川 尚子・高橋 智哉・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|---|
| 学 習 目 標 | <p>公衆衛生の意義と本質を明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければならない理由を十分に理解する。</p> <p>美容師の業務内容と感染予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、美容における衛生措置の重要性について理解する。</p> <p>消毒法において、その意義と原理を十分に理解し、適正な実施方法を身につける。</p> |
| 教 科 書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理 |
| 授 業 計 画 | <p>公衆衛生概説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の意義、美容業との結びつき、公衆衛生の発展向上のためになすべきこと ・公衆衛生の発展の歴史、及び公衆衛生の思想の発展について ・公衆衛生における対人的な予防医学と対物的な環境衛生の大別について ・保健所の機能、組織、業務など美容業との密接な関係について <p>感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容の業務を行う上での注意点及び、予防対策 ・衛生措置、消毒の意義について <p>環境衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生の意義と美容所における注意点について ・美容所における採光、照明、換気、床などの構造設備及び、衣服の衛生について ・美容所における廃棄物処理、環境保全対策について <p>衛生管理技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美容所における衛生管理、消毒の意義と目的について ・消毒方法の種類、原理、特徴について ・美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法 |
| 授業の進め方 | 講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 |
| 試験の実施方法 | 学期末試験 筆記試験(4択) |
| 成績評価方法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------------|-------|--------|
| 授業科目名 | 保健 | 課目区分 | 必修課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 3 | 授業時間数 | 90 |
| 担当教員名 | 佐藤 達郎・長浜 尚・五十嵐 紫織 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------------|--|
| 学 習 目 標 | <p>美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得する。</p> <p>美容の業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識を理解する。</p> |
| 教 科 書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健 |
| 授 業 計 画 | <p>人体の構造及び機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体各部の名称並びに頭部、顔部及び頸部の解剖学的特徴について ・美容の施術の際に使う骨格及び筋について種類、構造及び機能について ・人体(頭部、顔部及び頸部)の骨格、筋の種類、構造、及び神経機能の仕組みについて <p>皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、皮膚付属器官(毛髪、爪、脂腺、汗腺等)の構造について ・皮膚の生理的作用と美容との関係について ・毛髪、爪の生理的意義と特性について、美容技術との関連について <p>皮膚及び皮膚付属機関の保健衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、付属器官の状態に影響を与える因子 ・皮膚、付属機関を健康に保つための方法について <p>皮膚及び皮膚付属器官の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状について ・美容で使用する化粧品等によるかぶれ・アレルギーについて、その発生機序と予防法 |
| 授 業 の 進 め 方 | 皮膚、毛髪などの講義に関する内容は、美容業務との関連づけながら進める。 皮膚、毛髪の保健衛生については、衛生管理と関連させながら進める。 |
| 試 験 の 実 施 方 法 | 学期末試験 筆記試験(4択) |
| 成 績 評 価 方 法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------|-------|--------|
| 授業科目名 | 化粧品化学 | 課目区分 | 必修課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 2 | 授業時間数 | 60 |
| 担当教員名 | 佐藤 文男・竹内 文亮 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|--|
| 学習目標 | <p>化粧品を正しく使用するための正確な知識と適正な技術を身につける。</p> <p>化粧品の正確な科学的知識と合理的な取り扱い方法、化粧品による危害を防止するための使用方法を学ぶ。</p> |
| 教科書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健 |
| 授業計画 | <p>化粧品概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品の規制について <p>化粧品原料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水性原料 ・油性原料 ・界面活性剤 ・高分子化合物 ・色材 ・香料 ・防腐剤、殺菌剤 ・酸化防止剤 抗酸化剤 ・保湿剤 湿潤材 ・紫外線吸収剤 収れん剤 <p>基礎化粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚清浄用化粧品 化粧水 <p>頭皮・毛髪用化粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャンプー剤 スタイリング剤 パーマ剤 ヘアカラー <p>芳香製品と特殊化粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳香製品 特殊化粧品 美白化粧品 制汗、防臭剤 <p>化粧品の取り扱い</p> |
| 授業の進め方 | 講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。 |
| 試験の実施方法 | 学期末試験 筆記試験(4択) |
| 成績評価方法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------------------------|-------|------|
| 授業科目名 | 文化論 | 課目区分 | 必修課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1.2 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 2 | 授業時間数 | 60 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・本間 由希・五十嵐 紫織・高橋 智也・高橋 幸平 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後4年以上/信田 俊郎(実務経験無し) | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|--|--|
| 学 習 目 標 | <p>美容文化史の歴史及び沿革について知り、日本と西洋のファッションが、時代背景を踏まえ、どのように変遷してきたのかを理解する。</p> <p>流行を追う心理、流行が社会に及ぼす流行、流行が美容業において占める意義と役割について知る。</p> <p>和装と洋装の礼装について理解する。</p> | |
| 教 科 書 | 文化論(公益社団法人日本理容美容教育センター) | |
| 授 業 計 画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次1学期 | 第1章 総論 第2章 日本の理容業・美容業 第3章 ファッション文化史 日本編 第1節 |
| | 1年次2学期 | 第4章 ファッション文化史 西洋編 |
| | 1年次3学期 | 第3章 ファッション文化史 日本編 第2節 ~ 第5節 |
| | 2年次1学期 | 第3章 ファッション文化史 日本編 第6節 ~ 第8節 |
| 2年次2学期 | 第3章 ファッション文化史 日本編 第9節 ~ 第10節 第5章 礼装の種類 | |
| 授業の進め方 | 講義の中で教科書に即した課題レポートを行う。理解度確認のための小テストを行いながら進める | |
| 試験の実施方法 | 各学年で1～3学期に期末試験 | |
| 成績評価方法 | 期末試験(100点満点)の結果により、60点以上を及第点として60点に及ばない場合は、追試験を行いその結果により評価する | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--------------------------|-------|-----|
| 授業科目名 | 運営管理 | 課目区分 | 必修 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1.2 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織・高橋 幸平 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後4年以上 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|--|--|
| 学 習 目 標 | <p>経営者の考えや経営者が果たす責任・役割を理解する。</p> <p>人を雇うことの責任や働くうえで求められることを理解する。</p> <p>顧客を満足させるサービスとは何か、それをどう実現するかについて理解する。</p> | |
| 教 科 書 | 運営管理(公益社団法人日本理容美容教育センター) | |
| 授 業 計 画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次1学期 | 第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第2章 理容業・美容業の経営について 第3章 資金の管理 |
| | 1年次2学期 | 第2編 人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第2章 健康・安全な職場環境の実現 第3章 従業員としての視点から |
| | 2年次2学期 | 第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第2章 マーケティング |
| | 2年次3学期 | 第3章 サービスにおける人の役割 |
| 授業の進め方 | 講義と理解度確認のための小テストを行いながら進める。 | |
| 試験の実施方法 | 1年次で1.2学期に期末試験/2年次で2.3学期に期末試験を実施。 | |
| 成績評価方法 | 期末試験(100点満点)の結果により、60点以上を及第点として60点に及ばない場合は、追試験を行いその結果により評価する。 | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|-----|
| 授業科目名 | 美容技術理論 | 課目区分 | 必修 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1.2 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 |
| 単位数 | 5 | 授業時間数 | 150 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後4年以上 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|--|---|
| 学 習 目 標 | 美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力を身につける。 美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術を理解する。 理論に基づいた正確な技術の習得のために美容技術の基礎となる理論を学ぶ。 | |
| 教 科 書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論1 美容技術理論2 美容実習1 美容実習2 JNAテクニカルシステム 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション | |
| 授 業 計 画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次1学期 | 序章 美容技術理論を学ぶにあたって 1章 美容用具 4章 ヘアカットイング |
| | 1年次2学期 | 2章 シャンプーイング 6章 ヘアセッティング |
| | 1年次3学期 | 9章 ネイル技術 10章 メイクアップ 12章 着付けの理論と技術 |
| | 2年次1学期 | 3章 ヘアデザイン 7章 ヘアカラーリング 8章 エステティック |
| 2年次2学期 | 5章 パーマネントウェーブ 11章 日本髪 | |
| 授業の進め方 | 美容実習の学習状況と総合技術との相互の連携を図って進めていく。 | |
| 試験の実施方法 | 学期末試験 筆記試験(4択) | |
| 成績評価方法 | 期末試験(100点満点)の結果により、60点以上を及第点として60点に及ばない場合は、追試験を行いその結果により評価する | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|-------|
| 授業科目名 | 美容実習 | 課目区分 | 必修科目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1.2年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 実技 |
| 単位数 | 30 | 授業時間数 | 900 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛・樋口 天華 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後、4年以上の実務経験 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|---|--|
| 学 習 目 標 | 美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に、さらにその操作を適宜組み合わせさせて完成させる技術を身につける。 サロンにおける衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身につける。 お客様の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につける。 | |
| 教 科 書 | 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論1 美容技術理論2 美容実習1 美容実習2 まつ毛エクステンション JNAテクニカルシステム | |
| 授 業 計 画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次1学期 | ヘアカットिंग パーマメントウェービング ヘアカラーリング 着付け技術 ネイル技術 |
| | 1年次2学期 | シャンプーイング ヘアセッティング メイクアップ |
| | 1年次3学期 | 実習まとめ1 |
| | 2年次1学期 | 実習まとめ2 |
| | 2年次2学期 | 実習まとめ3 |
| | 2年次3学期 | 実習まとめ4 |
| 授業の進め方 | 美容技術理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく。 | |
| 試験の実施方法 | 学期末試験 学期末に実施し、相モデル(人頭モデル)及びモデルウィッグを使用して試験を行う。 | |
| 成績評価方法 | 教員、担当講師が各授業において評価表の記載を行い、その結果を評価する。 | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------|
| 授業科目名 | 総合技術 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 実技 座学 |
| 単位数 | 10 | 授業時間数 | 300 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛・樋口 天華 | | |
| 教員実務経験 | 美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------------|---|--|
| 学 習 目 標 | 必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらにサロンワークにおける実践的な技術を身につける。 高度な美容技術やトレンドを学び、確実に実施する能力を身につけ、これを応用して自らの技術へと昇華する総合的な能力を身につける。 | |
| 教 科 書 | 発行 (株)髪書房 MINX岡村カットレッスン 発行 全日本美容業生活衛生同業組合連合会 メイクアップテキスト SBS 2級 1級 JNAテクニカルシステム 発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション | |
| 授 業 計 画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次1学期 | スタイリング(カット ブロー ヘアアイロン ヘアカラーリング) メイク(SBS) フォトシューティング |
| | 1年次2学期 | ヘアカラーリング(実践) アップスタイリング ワインディング(実践) |
| | 1年次3学期 | ヘアアイロン(実践) |
| | 2年次1学期 | ヘッドスパ(実践) ネイル まつ毛エクステンション ブライダルプロデュース 特別セミナー(カット メイク ヘアセット ネイル) |
| | 2年次2学期 | 総合技術 まとめ1 |
| 2年次3学期 | 総合技術まとめ2 | |
| 授 業 の 進 め 方 | 美容実習の学習状況と総合技術との相互の連携を図って進めていく。 | |
| 試 験 の 実 施 方 法 | 学期末に実施し、相モデル(人頭モデル)及びモデルウィッグを使用しての実技試験とする。 | |
| 成 績 評 価 方 法 | 評価は次の4つの観点から行う。 1. 基礎的技術能力 2. 応用技術能力 | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|--------|
| 授業科目名 | 作品制作 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1, 2年次 |
| 開講学期 | 1年次2学期 | 授業の方法 | 実技 |
| 単位数 | 2 | 授業時間数 | 60 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛・樋口 天華 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後、4年以上実務経験 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|---|--|
| 学習目標 | <p>・基礎的な技術力を高めると共に、ヘア、メイク、ネイル、アップスタイルを中心に、クリエイティブな作品活動を行う。</p> <p>・各種コンテストやSNS等の発信において、スタイルを造るためのデザイン、技術、創造性を養う。</p> | |
| 教科書 | <p>発行 (株)髪書房 MINX岡村カットレッスン</p> <p>発行 全日本美容業生活衛生同業組合連合会 メイクアップテキスト SBS 2級 1級</p> <p>JNAテクニカルシステム</p> <p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション</p> | |
| 授業計画 | 学 期 | 内 容 |
| | 1年次2学期 | <p>芸術祭作品制作</p> <p>ワインディング</p> <p>スタイリング(カット、ヘアカラー、メイク)</p> |
| | 1年次3学期 | <p>技術コンテスト</p> <p>ワインディング</p> <p>セルフヘアアレンジ</p> <p>アップスタイル</p> <p>ヘアメイクプロデュース</p> |
| | 2年次2学期 | <p>Ribiコンペティション モデルを使ったヘア&メイク&ファッションのデザイン制作</p> <p>芸術祭作品制作</p> <p>アップスタイリング</p> <p>スタイリング</p> <p>メイクアップ</p> <p>ネイルアート</p> <p>まつ毛エクステンション</p> |
| 授業の進め方 | コンテストおよび作品制作にむけてデザイン、スタイル、を創造する。 | |
| 試験の実施方法 | コンテスト及び作品制作を試験とする。 | |
| 成績評価方法 | <p>評価は次の4つの観点から行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎技術能力 2. 応用技術能力 3. 創造デザイン能力 4. 意欲・態度 | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|---------|-------|------|
| 授業科目名 | サロン実務実習 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 2年次 |
| 開講学期 | 2年次1学期 | 授業の方法 | 実技 |
| 単位数 | 2 | 授業時間数 | 60 |
| 担当教員名 | 管理美容師 | | |
| 教員実務経験 | | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|---|
| 学 習 目 標 | 管理美容師の指導のもと、実際に美容所で実習を行うことによって、基本的な美容技術に習熟し、状況に応じて応用できる基礎的能力を身につける。 |
| 教 科 書 | |
| 授 業 計 画 | <p>実務実習実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理美容師の資格を有し、かつ、適切な指導監督のできる美容師がいること。 ・当該美容所の経営方法が適切かつ確実なものであること。 ・実務実習の指導は、本校が作成した実施計画に基づいて、当該美容所において十分な実務経験を有し、適切に指導監督できる美容師が行うこと。 |
| 授業の進め方 | 実務実習の指導は、本校が作成した実施計画に基づいて、当該美容所において十分な実務経験を有し、適切に指導監督できる美容師が行う。 |
| 成績評価方法 | 指導にあたった美容師は、生徒ごとに作成した実務記録を本校に提出し、これに基づいて評価を行う。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|-------|
| 授業科目名 | 国家試験受験対策 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 2年次 |
| 開講学期 | 2年次3学期 | 授業の方法 | 実技 座学 |
| 単位数 | 2 | 授業時間数 | 60 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛・樋口 天華 | | |
| 教員実務経験 | 美容師免許取得後、4年以上の実務経験 | | |

授業・課目情報

| | | |
|---------|--|--|
| 学習目標 | 美容師実技試験及び筆記試験 合格 | |
| 教科書 | 発行 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 発行 新潟理容美容専門学校 サブテキスト | |
| 授業計画 | 学 期 | 内 容 |
| | 2年次3学期 | 実技試験課題 第一課題 カットイング 第二課題※ オールウェーブセッティング ワインディング (※第二課題は11月に告示) 筆記試験 関係法規・制度 衛生管理 保健 化粧品化学 文化論 美容技術理論 運営管理 |
| 授業の進め方 | 実技試験 国家試験のリハーサルを中心に行い、試験中に起こりうる事柄にもきちんと対処できるよう、レベルを合格ラインまで高める。 筆記試験 模擬試験を中心に行い、その結果により不得意課目を自覚、克服しレベルを合格ラインまで高める。 | |
| 試験の実施方法 | 国家試験前にそれぞれ試験を行う。 | |
| 成績評価方法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 | |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------------|-------|-------|
| 授業科目名 | 芸術 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 1年次2学期 | 授業の方法 | 座学 実技 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 大倉 宏・信田 俊郎・相田 亜希子 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|---|
| 学習目標 | 専門的技術者としての自覚を促すとともに、芸術、文化など幅広い教養を身に付けることによって人間性豊かな人格の形成を目指す。 |
| 教科書 | 大倉 宏 著「芸術」 発行 株式会社A・F・T企画 文部科学省認定色彩能力検定 対策テキスト3級編 |
| 授業計画 | <p>芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婀娜と粹・浮世絵の世界 ・ほとけの美・仏教美術の世界 ・わびの美・茶人たちの世界 ・すまいの美(1)・寝殿造と書院造 ・あぶら絵の美・「写真」と自己表現 ・いくさ人の美意識・戦国時代の造形 ・墨の美・水墨画の世界 ・窓の向こうの大自然・日本庭園の世界 ・住まいの美(2)・民家 ・「現代美術」の空間 <p>立体絵画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想力、色彩感覚を駆使して、紙粘土を用い「2次元と3次元」が入り混じったボードを制作 <p>色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩と生活 ・色と視覚 ・色の分類 ・色知覚の三属性 ・PCCS ・混色 ・色の表示 ・色名 ・色の見え方 ・三属性による対比 ・色の心理的効果 ・PCCSに基づく色彩調和 ・配色 ・配色の効果 ・ファッショ ・環境の色彩 |
| 授業の進め方 | 芸術は、講義とスライドを用いてより具体的に学ぶ。(座学) 立体絵画は、15cm×22+C60cmのボードに絵具、粘土を使用し制作する(実技) 色彩はテキストと演習問題、配色シートを使用して学ぶ。 |
| 試験の実施方法 | 「芸術」、「立体絵画」、「色彩」それぞれの課題試験を行う。 |
| 成績評価方法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|---------|-------|-------|
| 授業科目名 | ヘアスタイル画 | 課目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 実技 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 佐藤 妙子 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|---|
| 学 習 目 標 | ヘアスタイルをデザインするために必要な知識と技術を、「ヘアスタイル画」を通じて身につける。 |
| 教 科 書 | 近藤達雄 著 「ヘアスタイル画テキスト」 |
| 授 業 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ・髪を描く基本 ・ストレートヘア(実習) ・ボブスタイル ・髪型の展開図とカット ・オリジナルボブをデザインする ・オリジナルカットスタイル(実習) ・顔と目鼻の描き方 ・束のヘアスタイル ・束のヘアスタイル(実習) ・ウェーブ ・ヘアアレンジ ・ヘアアレンジ(実習) ・メンズヘア(実習) ・レディースヘア(実習) ・メイクアップ ・オリジナルメイク(実習) ・似合うヘアスタイル(実習) ・キャラを決めるヘアスタイル(実習) ・質感 ・立体感と奥行き(実習) |
| 授業の進め方 | テキストを題材として、ヘアスタイル画の知識を深めそれを基に実際に実習を行う。 |
| 試験の実施方法 | 学期末に作品を制作する。 |
| 成績評価方法 | 評価は次の4つの観点から行う。 |
| | 1. 基礎技術能力 |
| | 2. 応用技術能力 |
| | 3. 創造デザイン能力 |
| | 4. 意欲・態度 |

課目基本情報

| | | | |
|--------|-------------------|-------|-------|
| 授業科目名 | 社会生活 | 科目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 1年次1学期 | 授業の方法 | 座学 実技 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 大塚 広大・梨本 光江・松山 茂樹 | | |
| 教員実務経験 | 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------|--|
| 学 習 目 標 | <p>社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術などを学ぶことによって、社会人としての心構えを養う。</p> <p>社会福祉の意義と目的とを学ぶとともに、福祉施設や地域のボランティア活動など、その重要性を認識する。</p> <p>サロンワークに必要な実践的な外国語(英語)を学び、必要な場面で英語を話す姿勢を養う。</p> |
| 教 科 書 | <p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 社会福祉</p> <p>発行 公益社団法人 日本理容美容教育センター 外国語</p> |
| 授 業 計 画 | <p>社会福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と社会福祉 ・医療保障 ・所得保障 ・社会福祉 ・高齢者と障害者の心と体 ・高齢者・障害者の介助 ・高齢者・障害者に対する理容・美容の実践 ・理容師・美容師と社会貢献活動 <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について話そう ・あいさつ ・お客様を迎える ・電話での接客 ・コンサルテーション ・シャンプー&トリートメント ・ヘアカット ・パーマ ・ヘアカラー ・仕上げ ・お会計 ・クレーム処理 ・海外研修 ・サロンの場面から |
| 授業の進め方 | <p>講義と定期的に小テストを実施し、理解度を確かめながら進める。</p> <p>外国語は実際にロールプレイングを交えながら進める。</p> |
| 試験の実施方法 | <p>学期末試験</p> |
| 成績評価方法 | <p>試験において60点を及第点とする。</p> <p>及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。</p> |

課目基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|-------|
| 授業科目名 | 接客マナー | 科目区分 | 選択課目 |
| 年度 | 2025 | 年次 | 2年次 |
| 開講学期 | 2年次1学期 | 授業の方法 | 座学 実技 |
| 単位数 | 1 | 授業時間数 | 30 |
| 担当教員名 | 長浜 尚・鈴木 愛弓・本間 由希・五十嵐 紫織 高橋 智哉・高橋 幸平・佐藤 瑠奈・五十嵐 愛・樋口 天華・山田 節子 | | |
| 教員実務経験 | 美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 ※山田節子 谷内田真理 実務経験なし | | |

授業・課目情報

| | |
|---------------|--|
| 学 習 目 標 | 美容業における接客マナーの重要性を理解するとともに、知識・技術・コミュニケーションスキルを学ぶ。 |
| 教 科 書 | 発行 株式会社マナーズ ビジネスマナー |
| 授 業 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ・美容業における接客マナーの重要性 ・接客業の知識・技術・コミュニケーションスキル ・接客マナーと職場のマナー ・人としてのマナー ・人としての優しさ ・集団意識 ・礼を正す ・時を守る ・場を浄める ・基本動作の徹底 |
| 授 業 の 進 め 方 | 講義、グループディスカッション、実習、ロールプレイング |
| 試 験 の 実 施 方 法 | 学期末試験 |
| 成 績 評 価 方 法 | 試験において60点を及第点とする。 及ばない場合は追試験を受け、その結果により評価する。 |